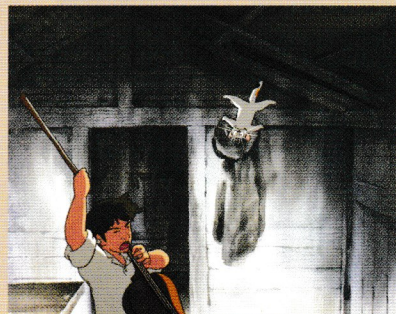
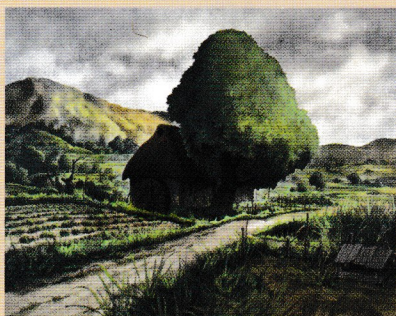


スタジオジブリの名匠 高畑勲 監督作品

「セロ弾きのゴーシュ」展 2026年7月18日(土)~8月23日(日)



- 主催→ 富士見町教育委員会
- 後援→ 信濃毎日新聞社、株式会社長野日報社、エルシーブイ株式会社、市民新聞グループ、日本アニメーション文化財団
- 開館時間→ 10:00~17:00(入館は16:30まで)
- 入館料→ 一般(高校生以上) 300円、小中学生 150円 ※諏訪6市町村の小中学生は無料
- 休館日→ 月曜日(祝日の場合は翌日) ※7/27、8/3・10・12・17は開館
- URL→ <https://www.town.fujimi.lg.jp/site/haku1/>
- 協力→ © Oh!Production



富士見町高原のミュージアム

〒399-0211 長野県諏訪郡富士見町富士見3597-1 tel:0266-75-5735



Gauche the Cellist

巨匠高畑勲の下に結集した名人たちが産んだ最高の漫画映画

動物たちとの交流を通じてセロの腕をあげていくゴージュ。そこに監督・高畑勲は、対人関係に極度に臆病なあまり無愛想で無表情に見える青年像を見出した。宮沢賢治の原作を読み込みながら独自のゴージュ像を作り上げ、全編にわたって音楽とアニメーションの調和が目指された本作品。自分たちの力で作品を作り上げたいという情熱に燃えた一級スタッフたちにより、5年の歳月をかけて作られた“音楽映画”が、この『セロ弾きのゴージュ』である。

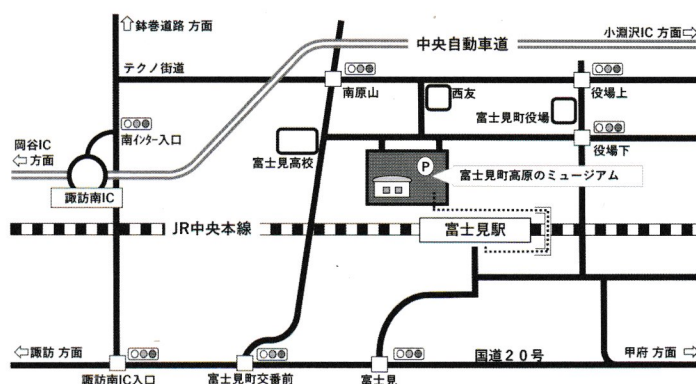
分業化がすすむアニメーション業界と、制作現場の才能と技術を提示する企画が産まれぬ現状を危惧した作画専門の下請けスタジオ・オープンプロダクションが、状況に一石を投じるべく、初めて自主企画を立ち上げ各職種別の小プロダクションの協力を得て制作した漫画映画。

宮澤賢治が書いた同名原作を、「アルプスの少女ハイジ」「おもひでぼろぼろ」「平成狸合戦ぽん

ぽこ」「かぐや姫の物語」の高畑勲監督が独自の解釈で映像化。まず枚数制限をなくし、動きに必要な分をすべて制作することにしたので、なめらかな自然な動きが生み出されることとなった。

キャラクターデザイン・レイアウト・作画を担当し、原画のすべてをひとりで描き上げた実力派アニメーター才田俊次は楽器演奏の描写のためセロ奏法まで学び作画に臨み、やはりほぼ全カットをひとりで描いた。

美術の椋尾篁は（「銀河鉄道999」「幻魔大戦」で活躍を知られ「母をたずねて三千里」）でも、やわらかで気品のある背景画を提供しており、本作でも新境地を開いている。



高畑 勲(監督)

アニメーション映画監督。1935年、三重県伊勢市に生まれる。'59年に東京大学仏文科卒業、東映動画(現・東映アニメーション)に入社。「わんぱく王子の大蛇退治」(63)などの演出助手を務めた後、劇場用映画「太陽の王子ホルスの大冒険」(68)で初監督。'71年、Aプロダクションへ移籍し、「ルパン三世」(71~72)や、劇場用中編「パンダコパンダ」(72)などを演出。

'73年、「アルプスの少女ハイジ」(74)を制作の後日本アニメーションで「母をたずねて三千里」(76)、「赤毛のアン」(79)などを演出する。「風の谷のナウシカ」(84)(宮崎駿監督)ではプロデューサーとして参画。翌

年、スタジオジブリ設立に参加し「天空の城ラピュタ」(86)のプロデューサーも務める。以後「火垂るの墓」(88)、「おもひでぼろぼろ」(91)、「平成狸合戦ぽんぽこ」(94)、「ホーホケキョとなりの山田くん」(99)を監督。2015年には待望の最新作「かぐや姫の物語」を発表し、その衰えを知らない創造力が全世界の注目を集めていた。2018年4月5日肺がんの為、入院先で死去。